動　物　実　験　計　画　書

女子栄養大学学長　　殿
女子栄養大学短期大学部学長　殿

女子栄養大学及び女子栄養大学短期大学部動物実験管理規程に基づき、下記の通り申請します。

新規　　変更　　継続（旧承認番号　　）

提出年月日	年　月　日	受付年月日	年　月　日	受付番号	
実習科目名 または 研究課題名					
教育・研究 目的					
動物実験 責任者	□栄養学部　□食物栄養学科	研究室名：			
	職　名：	e-mail：　@			
	フリガナ 氏　名：	緊急連絡先 TEL： 教育訓練受講の　□有　□無			
動物実験 実施者名 （括弧内にフリガナ、選択項目を✓）	氏名　（　） e-mail　@	TEL：	教育訓練受講の　□有　□無		
	氏名　（　） e-mail　@	TEL：	教育訓練受講の　□有　□無		
	氏名　（　） e-mail　@	TEL：	教育訓練受講の　□有　□無		
	氏名　（　） e-mail　@	TEL：	教育訓練受講の　□有　□無		
	氏名　（　） e-mail　@	TEL：	教育訓練受講の　□有　□無		

実施期間	実習の場合　年　月　日　～　年　月　日　　研究の場合　承認後　～　年　月　日					
施設 （選択項目を✓）	□　坂戸校舎動物実験センター　予約表への記載の　□有　□無					
	□　駒込校舎動物飼育室　予約表への記載の　□有　□無					
使用動物	動物種	系統名・週令	性別	頭数	入手先（導入機関名）	備考

教育・研究計画及び実験方法	教育・研究概要（計画と方法について、その概要を記入する）
	実験方法（飼育期間、使用ケージ、飼料、床敷きやえさの取替え、麻酔の種類と量及び方法、安楽死の方法等について記載、動物に加える処置等を具体的に記入し、想定される苦痛のカテゴリーや動物の苦痛軽減方法等と整合性を持たせること）

特殊実験区分（該当項目を全て✓）	☐ １．感染実験　安全度分類:　☐ BSL1　☐ BSL2　☐ BSL3
	☐ ２．遺伝子組換え動物使用実験　区分:　☐ P1A　☐ P2A　☐ P3A
	☐ ３．化学発癌・重金属実験等
動物実験の種類(選択項目を✓)	☐ １．試験・研究　☐ ２．教育（実習）・訓練　☐ ３．その他(　　)
動物実験を必要とする理由(選択項目を✓)	☐ １．検討したが、動物実験に替わる手段がなかった
	☐ ２．検討したが、代替手段の精度が不十分だった
	☐ ３．その他　(　　)

想定される苦痛のカテゴリー(選択項目を✓)	☐ B. 脊椎動物を用い、動物に対してほとんど、あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験
	☐ C. 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験
	☐ D. 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み(長時間持続するもの)を伴うと思われる実験
	☐ E. 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い、またはそれ以上の痛みを与えると思われる実験
動物の苦痛軽減、排除の方法(該当項目を全て✓)	☐ １．短時間の保定・拘束および注射など、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない
	☐ ２．科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない
	☐ ３．麻酔薬・鎮痛薬等を使用する(具体的薬剤名及びその投与量・経路を記入)〔　　〕
	☐ ４．動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとるなどの人道的エンドポイントを考慮する
	☐ ５．その他（具体的に記入：　　）
安楽死の方法(該当項目を全て✓)	☐ １．麻酔薬等の使用（具体的薬剤名及びその投与量・経路を記入。なお、エーテルによる安楽死は原則禁止）〔　　〕
	☐ ２．炭酸ガス
	☐ ３．中枢破壊（具体的に記入：　　法）
	☐ ４．安楽死させない（その理由を記入：　　）

動物死体の処理方法（選択項目を✓）	□　１．外部業者に委託
	□　２．その他（具体的に記入：　　）
その他必要または参考事項	（過去の動物実験計画書承認実績、学内の関連委員会への申請状況などがある場合には必ず記入する）

上記の太枠内を記入してください。

動物実験倫理委員会記入欄	審査終了：　　年　　月　　日	
	修正意見等	
	審査結果	□　本実験計画は、女子栄養大学における動物実験規程等に適合する。 （条件等　□　組換えDNA実験安全委員会の承認後、実験を開始すること）
		□　本実験計画は、女子栄養大学における動物実験規程等に適合しない。
学長承認欄	承認：　　年　　月　　日	
	本実験計画を承認します。 承認番号：　第　　号 女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部学長　香川明夫	